

県議会雑話

定数削減と県議会の1票の格差

国会議員の1票の格差を巡って、違憲判決が相次ぎ、0増5減案が国会に提出されましたが、鳥取県議会でも定数削減が議員の間で話題になっています。

県議の各選挙区の有権者数を定数で割ると、1番多いのは東伯郡の1万6223人で、1番少ないのは岩

美郡の1万588人。1票の格差は1・53倍です。

1人区を除いて定数あたりの有権者が1番少ないのは西伯郡ですが、定数を3から2へと減らすと格差は1・75倍に拡大します。反対に東伯郡を1増すると1・53から1・15へ格差は縮小します。公選法に従って市郡単位で選挙区を定める限り、定数を削減しながら1票の格差を解消することは論理的にできません。

議員定数削減を主張される方も居られますが、審議を充実するには一定数の議員は必要です。現在、9人

の県議で構成する四つの常任委員会を中心に審議していますが、各委員会の所管事項はかなりの分量です。審議を充実させるには常任委員会は今一つくらいあった方が良いでしょう。委員数も最低9人は必要というのが実感です。皆様のご意見をお聞かせください。

鹿島港の洋上風力発電に期待

機械化で地産外商の土佐材に学ぶ

エネルギー・雇用促進調査特別委員会は2月4、5日、再生可能エネルギーについて県外調査しました。茨城県土木部港湾課でお聞きしたのは「洋上風力発電所推進計画」。鹿島港の一部に5MWの発電装置50基を建設、平成29年頃の発電を目指しているそうです。



写真①

エネルギー・雇用促進調査特別委員会は2月4、5日、再生可能エネルギーについて県外調査しました。茨城県土木部港湾課でお聞きしたのは「洋上風力発電所推進計画」。鹿島港の一部に5MWの発電装置50基を建設、平成29年頃の発電を目指しているそうです。



写真②

研究・知財戦略機構の松本良特任教授からもお話を聞きました。メタンハイドレードは世界の海洋縁辺部に広く存在。太平洋岸の南海トラフから日本海へと調査を広げ、隠岐周辺の海底の下でも確認したそうです。

「実用化に向けて資源量調査をしているが、隠岐沖のメタンハイドレードは堅い密集帯のため、船上からの調査では限界があり、試掘調査が不可欠。息の長い取り組みが必要だ」と話されました。また、森林・林業・林産業活性化推進議員連盟の県外調査で4月16、17日、高知県を訪れました。高知県木材産業課から土佐材の地産外商の取り組みについて詳しくお聞きし、香美森林組合の二写真②からはヨーロッパの林業に高性能機械と林道整備を学んで進める低コスト化への取り組みについてお聞きしました。

編集後記

鳥取市庁舎の新築移転を問う住民投票からもうすぐ1年。現在地で耐震改修と結論が出たにもかかわらず、実現可能かどうかという議論が続いています。基本設計もない段階で建築費の議論をすることは無意味です。民意は最大限尊重すべきです。できるかどうかではなく、どうしたらできるかという建設的な議論を期待したいと思います。

市庁舎問題を考える市民の会が松坂市長を招いて29日に開く、市民集会の案内を同封しました。私は出張のため失礼しますが、時間の許す方はご参加下さい。

砂場隆浩県政ひろば

〒680-0023 鳥取市片原1丁目107
TEL 0857-50-0130/FAX 50-0641
tottori-kodomo@olive.plala.or.jp

県政へのご意見ご不満をお寄せ下さい
この紙面記載の記事は、下記のHPで詳しくご覧いただけます
http://www.tottori-kodomo.jp